

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>入居者様の個々を尊重し、地域との交流を大切にした基本理念をかかげている。</p>	○	地域との交流を図る中で、今後は地域の一員としての内容をおこなった理念に移行していきたいと考えている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>毎朝の申し送り時に理念を全員で唱和し、日常的な業務の中で理念に応じたものであるか確認及び指導している。</p>	○	カンファレンス時に理念を掘り下げて、職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っていききたいと考えている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p> <p>地域向けの広報紙を発行し、牟礼町原地区自治会の班ごとに回覧してもらっている。また、運営推進会議などで地域交流が図れるよう説明している。家族にはホーム便りや家族会などで説明している。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>日常的に散歩や薬局などに出かけ、近隣の人達と挨拶を交わしたり、話をしたりしている。</p>	○	隣近所の人達が立ち寄ったり、遊びに来たり、おすそ分けをしたりする間柄になりたいと考えている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>近くの幼稚園の運動会に参加したり、来所により歌や踊りを披露してもらっている。また、老人クラブの方に野菜作りのお手伝いをしてもらったり、当ホーム主催の秋祭りには、婦人会の方にも協力してもらった。</p>	○	今後、小・中学校との交流や青年会への秋祭りのお手伝いを依頼したい。地域の行事に参加する機会を増やしていきたいと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	牟礼町の介護事業所が集まる会合に参加し、高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合っている。また、人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行い、介護の質の向上に努めている。外部評価の結果は、全体カンファレンスで報告し、改善に向けて検討している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を重ねるごとに参加メンバーを増やしている。ヒヤリ・アクシデント・事故報告・ボランティア・入退居の状況については毎回行っている。外部評価への取り組みおよび夏祭りの運営などについては、その時期に応じて報告や話し合いを行い、そこでの意見を活かすようにしている。	○	参加メンバーの人々が運営推進会議の意義や役割などを理解し、積極的に参加してもらえるよう働きかけていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業を行っていく上で生じる運営などの課題について、市町村担当者と協議しながら行っている。協働関係を継続できるよう心掛けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員への説明を行っている。必要な人には、説明、アドバイスをしながら支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全体のカンファレンスを開き勉強し、虐待が見過ごされることがないように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。当ホームでできること、できないこと、起こりうるリスクについては、特に重視して説明をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを案ずる努力をし、利用者本位の運営を心掛けている。その時々利用者の不安、意見などは、全ユニットの問題として考え、話し合いを行い、ケアに活かしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月プレスマン便りで暮らしぶりやエピソードなどを報告する他に、担当職員からお手紙を送るようにしている。家族が来訪時には利用者の状況について話し合っている。金銭については、家族に用途の承認のため金銭出納帳にサインをもらっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱を置くと共に家族会、運営推進会議などで意見、要望を出してもらえぬ雰囲気づくりに心掛けている。そこでの意見などを全体カンファレンスで話し合い反映させるようにしている。苦情に関しては、併設病院の検討会でも協議している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回、個人面談を行い、意見を聞くようにしている。月に1回行っている全体カンファレンスでも意見、要望を聞き、日頃からも問いかけたり、聞き出したりするようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	起床時や就寝時など、利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。また、必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。加えて、管理者とパートの看護師は状況に応じた対応ができるように通常のシフトに入れていない。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前回の指摘項目であり、法人内の異動を最小限にしてもらった。利用者、家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えている。異動などがやむを得ない場合も、その時期や引き継ぎの面で最善の努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に2回開催される法人内の研修には、1ユニット1名ずつ参加するようにしている。グループホーム協議会開催の研修会には、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。それらの研修報告は毎月の全体カンファレンスで発表してもらい、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会からの研修会や相互評価に積極的に参加してもらい、当ホーム以外の人材の意見や経験をケアに活かすようにしている。また、牟礼地区のケアマネジャーが参加する地域ケア会議に出席し、交換研修や情報交換を行ない質の向上に励んでいる。	○	他グループホームとの交流を深め、他事業所の設備、運営などをさらに勉強していく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常や個人面談時に職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。勤務時間内にも気分転換できる休憩室を確保したり、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も頻繁に現場に来ており、利用者と過ごしたり、職員の業務や悩みを把握している。また、職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で、生活状態を把握するよう努め、本人の思いや不安を理解しようとしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで、落ち着いてもらい、次の段階の相談につなげている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては、他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	やむを得ず、すぐ利用になった場合には、家族やそれまで関わっていた関係者に面会に来ていただき、利用者に安心感を持ってもらうようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	おやつや夕食を一緒に手作りするなかで、たくさんのことを教わったり、行事を共に楽しみながら、その時の感動を分かち合い、支えあいながら生活している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	精神面や身体面など変化があった時には、その都度電話で報告している。また、面会時には最近の出来事を伝えるとともに家族の話にも耳を傾け、同じ思いで利用者を支えていけるような関係づくりを心掛けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	夏祭りや花見、ショッピングなどの行事を企画し、利用者と家族が楽しい時間を多く持てるよう働きかけている。また、家族と疎遠にならぬよう常日頃の状態をこまめに電話で報告し、利用者の家族に会いたいという思いを伝えている。	○	月に一度利用者の様子を手紙に書き、写真とともに家族へ送ることによって、より一層利用者の日常生活が伝わるよう取り組んでいる。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の訪問にも快く過ごしていただけるよう配慮している。また、利用者一人ひとりを取り巻く人間関係を把握し、これまで生活してきた地域での買い物やドライブなど馴染みの関係が途切れぬよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の後片付けや洗濯、お茶の時間など利用者同士と一緒に過ごせる時間を多く持てるように支援している。職員は、むやみに口を出さず、利用者同士が助け合い、支え合って生活していくため調整役となり支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了し、併設病院への入院となった利用者やその家族に対しては、関係が断ち切れぬよう、長期、継続的なフォローをしている。	○	サービス利用が終了しても、併設病院へ訪問し、入院となった利用者への精神的フォローができるよう努めている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、行動や表情から利用者一人ひとりの思いや希望を推し測り、家族や関係者からの情報を得ながら把握するよう努めている。	○	センター方式を取り入れることにより、より一層利用者の根底にある思いや希望を把握できるよう取り組んでいる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集を綿密に行うため、プライバシーに配慮しながら、利用者や家族から聞き取るようにしている。また、入居後も折に触れ、少しずつ情報を得るよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、「できない」という情報にとらわれず、生活・心理面など多方面から総合的に把握し、できる力を発見していくことに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族・関係者との話し合いの場を持ち、それぞれの意見や要望を聴き、介護計画の作成に活かしている。	○	介護者の一方的な支援とならぬよう、ケアサービス会議を開き、利用者を他方面からみつけ、支援していけるよう取り組んでいる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した時は、期間終了を待たずにケアサービス会議を開き、現状に即した計画を作成できるよう検討、見直しを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、朝のバイタルサイン、食事量、水分量、排泄状況および日々の様子や本人の言葉を細かく記録し、全職員の確認を義務づけている。また、個別ファイルを基に介護計画の見直し評価を行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームに看護職員3名配置している。また、病院の併設施設でもあり医療連携体制は充実している。利用者の受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続を行っている。	○	併設に病院があるため、重度化した場合や終末期は入院をしてもらっている。今後は、本人・家族の意向に基づきホーム内での看取りに取り組んでいきたいと考えている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員には運営推進会議に出席してもらい意見交換するようにしている。ボランティアに関しては、当ホームの立地条件の悪さから外出が難しい状況であったが、平成20年1月から定期的に来てくれる団体と、行事などの時に依頼する団体が見つかり支援の幅が広がった。	○	今後、運営推進会議に警察、消防および文化・教育機関などに参加してもらえるよう働きかけていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて高齢者支援センターのケアマネジャーおよび地域包括支援センターの保健師のアドバイスを受けている。また、本人の希望や体調に応じて訪問理容サービスや歯科往診を利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらい、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの顧問医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力し通院介助を行っている。複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホームの顧問医が認知症に詳しく、月1回認知症についての勉強会とケースカンファレンスを行っている。それ以外にも利用者について指示や助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を3名配置しており、日勤帯には必ず1名確保するように勤務を組んでいる。夜間帯では、看護職員が勤務でない場合でも、併設病院の看護師の協力により対応できるようにしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、看護師が付き添い必要な情報を医療機関に提供するようにしている。また、頻繁に職員が見舞うようにし、家族とも情報交換しながら、回復状況などをみながら速やかな退院支援に結びつけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームが対応しうる最大のケアについて説明を行い、方針を共有するようにしている。また、状態の変化があるごとに家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最後が迎えられるように随時意志を確認しながら取り組んでいる。急変した場合は、すぐ対応してもらえるよう医療機関とも密に連携を図り対応している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む所へこれまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、きめ細かい連携を心掛けている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会を行い、職員の意識向上に努めると共にカンファレンスやロールプレイで対応の仕方を見直し、利用者のプライバシーの確保を徹底している。	○ 全職員が個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底をしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた声掛けを行うよう努めると共に、意思表示が困難な方にも自己選択できるよう飲み物のメニュー表を作るなどし、利用者が自分で決める場面づくりをしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れの中で、利用者一人ひとりのペースに合わせ、その時の体調を見ながら声を掛け、その日を思うように過ごしていただけるよう、できるだけ個別性のある支援をしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	専属の理容師が来ており、利用者の望むカットができるよう支援している。着替えは、本人の着たいものを着ていただけるよう見守り、支援している。	○ 洋服や化粧品など利用者と共に買いに行き、利用者本人が望むおしゃれができるよう支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	翌日のメニュー書き、盛り付け、下膳、食器洗いなど利用者を中心としながら一緒に行うことで、食事への楽しみや利用者の自信につながるよう取り組んでいる。畑で作った野菜と一緒に収穫し、食事に並べることも喜びのひとつとなっている。	○ 意思表示の困難な方にも分かりやすいようなアンケートをつくり、利用者が食べたいと思うメニューを職員と一緒に手作りするなど、利用者の楽しみとなるよう工夫し、取り組んでいる。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	定期的に外出の機会を設け、自分の好きなおやつや飲み物を買って食べていただけるよう支援すると共に、メニュー表を作成しお茶の時間にはその日の気分に合わせて、好きなものを選んでいただけるよう工夫している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めると共にトイレ誘導をし、トイレでの排泄を促すことでオムツの使用を減らし、気持ちよく排泄できる支援をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合で入浴が左右されないよう利用者にアンケートをとり、一人ひとりの希望する入浴に近づけるよう取り組んでいる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状況に合わせて、休息を取り入れながら、無理なく過ごせるよう支援している。午前中の日光浴を取り入れるなどし、生活リズムを整えるよう努めている。	○	午前中の日光浴が安眠に効果的とのこと。天気の良い日には、午前中の日光を浴び、新鮮な空気を吸うことで自然に安眠できるよう取り組んでいる。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが役割を持てるよう無理強いせずに、お願いできそうな仕事を楽しんでもらえるよう工夫すると共に、心から感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、お金を所持している方もいる。また、家族からお金を預かり、事務所で管理している方でも、買い物時などは、自分で払っていただけるようにお金を手渡すなど支援している。	○	毎週、移動式バン屋が来てくれ、利用者一人ひとりが自分で好きなパンを選び、自分で購入することの楽しさが持てるよう支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調に配慮しながら、散歩、ドライブ、買い物などに出掛けている。車椅子の方でも日光浴や買い物など日常的に支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の外出への思いを聞くと共に、家族会などを利用して家族からも外出意向を聞くなど、外出支援に力を入れて取り組んでいる。	○	家族やボランティアの協力を得ながら、利用者が希望している場所や季節感を楽しむことができる場所へ出かけられる機会を多くつくっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望した時は、いつでも電話ができるよう支援している。手紙は、利用者と一緒に投函するようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は定めてあるが、家族の都合の良い時間に訪ねて来ていただけるよう配慮している。訪問時は、職員が笑顔で迎えるよう心掛け、利用者の居室で気兼ねなく過ごしてもらえるようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアに取り組んでいるが、車椅子からの転落の危険がある利用者に関しては、家族の了解のもとやむを得ず安全ベルトを使用している。	○	安全ベルトをむやみに使用するのではなく、必要最小限での使用となるよう取り組んでいる。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が利用者の状態を把握し、見守りを重視することで、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。	○	夏祭りや運営推進委員会などを通して、地域の人々にも理解を求め、見守り、声掛けや連絡をしてもらえる関係づくりに取り組んでいる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールには常に職員がいるようにし、離れる時は職員同士、声を掛け合うようにしている。また、居室で過ごす利用者の所在確認は、昼は1時間ごと、夜間は頻回に行い、利用者全員の状況を把握するよう努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や包丁など日常生活に必要な物品は鍵をかけたりせず、チェックを厳重にし、利用者の状態に合わせて、できるだけ自由に使用できるよう取り組んでいる。	○	朝・夕の本数チェックだけでなく、使用後の確認は必ず行うよう職員に周知し、徹底している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故やヒヤリハットに関する報告を基に利用者一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐよう取り組んでいる。事故が発生した場合は速やかに家族に報告し、併設病院の医療事故対策委員会で事例検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを作成し、全職員に周知・徹底を図るとともに、年1回併設病院の看護師による応急手当の勉強会を行っている。	○	勉強会を開き、急変や事故発生時を想定したロールプレイを行い、対応の仕方を訓練している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成し、年2回昼と夜間想定で消防署の協力を得て、利用者と共に避難訓練を実施している。	○	運営推進会議を通して、地域住民の参加、協力をえられるよう取り組んでいる。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会やケアサービス会議を通して、利用者の日頃の生活を見ていただき起こり得るリスクを説明している。また、リスクの高い利用者には状況変化に応じて、その都度、家族に説明し、理解を得られるよう務めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルサインチェックを行い、利用者一人ひとりの状況を把握するよう努めている。また、食欲・顔色・様子など少しでも変化が見られた時は、速やかに看護師に報告し、併設病院への受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。薬の処方や用量が変更された場合は、その都度申し送りし、飲み忘れや誤薬がないよう努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い、繊維質の多い食材や乳製品を採り入れ、自然排便できるよう努めているが、便秘時は下剤を使用している。	○	自然排便できるよう水分を多くとり散歩や体操を取り入れ、自然排便できるよう取り組んでいる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、利用者の力に応じて、見守りや介助を行っている。就寝前は、義歯洗浄剤を使用し、清潔を保っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録し、職員は情報を共有している。食事量や水分量が低下していた場合は、好みのものを取り入れるなどの工夫をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設病院と連携をはかり、感染状況をいち早く収集するよう努めている。利用者やスタッフだけでなく、訪問者にも手洗い、うがいをお願いしている。インフルエンザ予防接種は、家族に同意をいただき、全利用者が受けている。	○	今後も、感染症に関して情報収集を行い、早期発見、早期対応に努めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養課係をもうけ、係りが責任をもって常に冷蔵庫内の点検、清掃を行っている。また、ふきん・調理器具・食器類は定期的に漂白し、清潔を心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、ベンチを置き気軽に休息できるようにしている。また、プランターに季節の花や野菜を植え、明るく家庭的な雰囲気がつくれるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には利用者が生けた季節の花を飾り、壁には利用者手作りの作品を飾っている。排泄物のおいには特に気をつけ、換気を充分に行っている。家庭的な雰囲気を感じられるよう、ご飯や味噌汁の香り、窓から差し込む光、有害な音など工夫や配慮をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは、フローリングと畳とに分けており、利用者が好きな場所でくつろげるようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や人形・時計など利用者が使い慣れたものを利用者自身が飾ったり、好みの音楽などを流したり、その人らしく居心地のよい居室になるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレは、換気を十分に行い、悪臭が出ないよう特に気を配っている。温度調整は、冷暖房に頼りすぎず、利用者の状況に応じて調整している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒につながる危険がないよう日用品の収納場所をチェックしたり、利用者一人ひとりのその時の状態に応じて、家具の配置を変えるなど、常に安全確保と自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	目印は、車椅子の利用者にもわかるような高さに表示するなど一人ひとりの状況に合わせて、環境整備を行うなどの工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターに季節の花や野菜を植え、手入れや水やりを楽しめるようにしている。また、玄関先にはベンチを置き、利用者が涼んだり、日向ぼっこができるような工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一日が‘笑顔’で始まり‘笑顔’で終われるよう利用者様にとっての‘笑顔の絶えない第二の我が家’を目指している。